

## 「平成25年度地域イノベーション戦略推進会議（第3回）」の開催について

### 1 開催概要

「イノベーション立県」に向けた取組を加速するため、平成24年8月に産業界・大学・金融機関・行政のトップを構成メンバーに設置した「地域イノベーション戦略推進会議」の平成25年度第3回会議を開催した。

今回の会議では、第2回会議に引き続き、イノベーションを創り出す事業環境（産学連携）について、意見・情報交換等を行った。

○日時：平成26年2月3日（月） 17時～19時

○メンバー：（出席者名簿順、敬称略）

産業	(株) アスカネット	代表取締役社長兼最高経営責任者	福田 幸雄
	カイハラ (株)	代表取締役社長	貝原 潤司
	コベルコ建機 (株)	代表取締役社長	藤岡 純
	シャープ (株)	執行役員電子デバイス事業本部長	江川 龍太郎
	マツダ (株)	代表取締役副会長	金井 誠太
大学	広島大学	学 長	浅原 利正
金融	(株) 広島銀行	代表取締役頭取	池田 晃治
行政	広島県	知 事	湯崎 英彦
ファシリテーター	広島経済大学	教 授	川村 健一

### 2 主な意見の内容

#### 【イノベーション・ハブ】

- 大学の研究は、多様性をもってできる環境を保つ必要があり、「ものづくり」でも、理工系のみならず人文社会学系の視点も重要である。
- イノベーションを創り出すため、イノベーションに興味を持つ多種多様な人が集まる「場」と研究者が集まっている共同研究拠点が、上手く連携、連動していければよい。

#### 【リーダー養成】

- リーダー像を描く必要がある。リーダーに求められるものは、社内外で新しいことに気付く発見力や、人の配置や技術と技術を結びつけるコーディネート力等を有する人物で、考える力や行動思考の基盤となる意識、価値観を有していることである。
- リーダーを養成する仕組みについては、予算的なことや地域的な単位、参加させる企業のメリット等検討する必要がある、地域のリソースを活用し手作り感のあるものとすべき。

#### 【成果と資金の循環】

- 企業が求める成果と大学が提供する成果にはギャップがある。双方向で情報を発信して、マッチングさせる機能がほしい。
- 大学の知的資源は大きいので、産が学のリソースを最大限有効活用することを目指す必要がある。

### 3 今後の開催日程

平成26年度も3回程度開催予定。（第1回平成26年6月予定）